

高知県吾川郡いの町における テングコウモリ *Murina hilgendorfi* の捕獲記録

佐藤重穂*・谷地森秀二**

A record of the Tube-nosed bat *Murina hilgendorfi* from Ino Town, Kochi Prefecture

SATO Shigeho* and YACHIMORI Syuji**

Abstract Two specimens of the Tube-nosed bat *Murina hilgendorfi*, which was a vulnerable species on Red Data Book of Japan, were collected from Ino Town, Kochi Prefecture on September 2006. Those bats were trapped on adhesive sheets which were set for collecting insects. The environment where the bats were collected was a mature plantation of Hinoki cypress *Chamaecyparis obtusa* with poor understory vegetation.

Key words: adhesive trap, Kochi Prefecture, *Murina hilgendorfi*, vulnerable species

テングコウモリ *Murina hilgendorfi* はコウモリ目ヒナコウモリ科に属し、北海道、本州、四国、九州に分布する日本固有種である(阿部ら 2005)。本種は環境省によるレッドデータブックにおいて絶滅危惧Ⅱ類と位置付けられ(環境省野生生物課, 2002)、高知県レッドデータブックにおいては情報不足と位置付けられている(高知県レッドデータブック[動物編]編集委員会, 2002)。

四国の翼手類の分布記録をまとめた森井(1992)によると、高知県におけるテングコウモリの報告記録はこれまでに1件のみであり、県内の分布についてほとんど知られていない。

2006年に筆者の一人である佐藤が高知県吾川郡いの町(2004年10月の町村合併前の旧本川村地区)において、テングコウモリ2個体を捕獲したので、報告する。捕獲場所は四国森林管理局嶺北森林管理署管内の奥南川国有林のヒノキ *Chamaecyparis*

obtusa 人工林内で、標高900mの場所(33°40'50" N, 133°15'30" E, 環境省三次メッシュコード 5033-4210)であり、吉野川の支流である大森川の流域である。ヒノキ人工林の面積は約7haであった。当該地は北向きの斜面の上部に位置し、傾斜は30度であった。ヒノキ林の林齢は29年生であり、林冠高は約12mであった。この林分では近年は間伐が行われた経歴はなく、林内は暗く、林床植生はきわめて貧弱である。森林の階層構造は高木層と低木層の二層から成り、高木層は植栽木であるヒノキのみで、低木層にはヒサカキ *Eurya japonica*、ケクロモジ *Lindera sericea*、シロモジ *L. triloba*、ハイノキ *Symplocos myrtacea*、シラキ *Sapium japonicum*、スズダケ *Sasamorpha borealis*、サルトリイバラ *Smilax china*、ツタ *Parthenocissus tricuspidata* がわずかに生えていたが、低木層の合計の被植率は約1%であった。ヒノキ林の周辺にはス

*〒780-8077 高知市朝倉西町2-915 独立行政法人森林総合研究所四国支所
Shikoku Research Center, Forestry and Forest Products Research Institute, 2-915 Asakura-nishimachi, Kochi 780-8077, Japan

**〒785-0023 須崎市下分乙470-1新荘公民館内 特定非営利活動法人四国自然史科学研究センター
Shikoku Institute of Natural History, 470-1 Shimobun otsu, Susaki 785-0023, Japan

ギ *Cryptomeria japonica* 人工林や落葉広葉樹を主体とする二次天然林があった。

佐藤はヒノキ林の害虫であるキバチ類の発生調査の目的で、2006年7月に α -ピネンを誘引剤とするキバチ捕獲用の粘着トラップ(Sato and Maeto, 2006)を、このヒノキ林分に5器設置した。トラップはヒノキ林の中央付近に1器設置し、この1器を中心として互いに30m以上離れるように、半径30mの円周上に他の4器を設置した。トラップはそれぞれ2本のヒノキ立木間にロープを張って、地上高約1.5mの位置に吊り下げた(図1)。粘着紙には、アース製薬(株)製のカミキリホイホイ[®]をトラップ1器当たり5枚使用し、円筒形のトラップの外側に粘着面が向くように粘着紙を巻き付けた。その後、半月ごとの間隔で捕獲虫の回収と粘着紙の交換を行った。2006年9月20日の調査の際に、トラップのうち、1器に同時に2頭のテングコウモリがかかっていた(図2)。種の同定は阿部ほか(2005)に従った。前回の調査は9月4日であったので、かかったのは9月4日から20日までの間であった。なお、このトラップ



図1．昆虫調査用の粘着トラップ

は同年10月まで現地に設置したが、テングコウモリを含む哺乳類がかかったのは、この1例2頭のみであった。



図2．粘着トラップにかかったテングコウモリ

2頭のテングコウモリの性別はともに雄であった。これらの個体の各部位の計測値を表1に示す。なお、計測部位および計測方法はコウモリの会(2005)に従った。各部位の長さの計測にはノギスを用いて、0.1mm単位で測定した。体重の計測には電子重量計(ハンディミニ1476, TANITA製)を用いて、0.1g単位で計測した。精巢の肥大状況を確認するために、精巢の重量を電子天秤(EW-60A, エー・アンド・デイ製)を用いて、0.01g単位で計測した。

捕獲された2個体は、骨格標本として、四国自然史科学研究センターで保管している(SINHMA 0182, 0183)。なお、本種が昆虫調査の際に混獲されたことについて、高知県文化振興部自然共生課へ報告した。

テングコウモリは樹洞や洞窟をねぐらとして利用し、おもに森林の下層で飛翔昆虫を捕食するとされている(阿部ら, 2005; コウモリの会, 2005)。今回、トラップは地上高1.5mに設置されていたので、テングコウモリの行動する空間にトラップがあったためにひっかかったことが考えられる。あるいは、すでにトラップに捕獲された昆虫をテングコウモリが餌として認識してトラップに近寄り、粘着紙にひっかかったのかもしれない。

高知県におけるこれまでのテングコウモリの記録は仁淀村(現仁淀川町)鳥形山石神(Yoshiyuki, 1989), 東津野村(現津野町)不入溪谷(谷地森, 2007), 物部村(現香美市)土佐久保廃坑(仁尾

表1. テングコウモリの外部計測値

標本番号	SINH-MA 0182	SINH-MA 0183
性別	♂	♂
成長段階	成獣	成獣
体重 (g)	11.2	10.4
全長 (mm)	102.0	97.9
頭胴長 (mm)	67.4	61.2
尾長 (mm)	34.6	36.7
前腕長 (mm)	45.6	43.9
後足長(爪含む)(mm)	12.6	13.1
後足長(爪含まず)(mm)	11.4	11.4
耳介長 (mm)	17.1	—
耳介幅 (mm)	10.2	—
耳珠長 (mm)	9.7	—
耳珠幅 (mm)	2.5	—
右精巣直径×短径	6.7×3.7	6.2×4.6
左精巣直径×短径	7.7×4.3	6.9×3.2
右精巣重量 (g)	0.06	0.04
左精巣重量 (g)	0.06	0.04

—：破損のため、未計測。

かおり、私信)のみである。今回の捕獲個体は高知県内で4例目の記録と考えられる。また、吉野川の上流域である高知県嶺北地域(いの町旧本川村地区、大川村、土佐町、本山町、大豊町)においては、初めての確認記録となる。

テングコウモリは四国においては、香川県(香川県希少野生生物保護対策検討会、2004)、愛媛県(愛媛県貴重野生動植物検討委員会、2003)、高知県(高知県レッドデータブック[動物編]編集委員会、2002)で確認されているが、高知県以外でも香川県レッドデータブックにおいて準絶滅危惧、愛媛県レッドデータブックにおいて情報不足と位置付けられ、四国地域全体で希少な種であると考えられる。本種を保全する上で、生息地に関する情報が集積されることが望まれる。

なお、佐藤は過去に森林昆虫調査を目的として今回と同様の粘着トラップを各地で用いてきたが、哺乳類が混獲されたのは本事例が初めてである。類似の事例としては、柴田・安井(2006)が茨城県において、天然林の樹冠部の地上15mに設置した昆虫用の粘着トラップにコテングコウモリ *M. ussuriensis* 1頭が付着した事例を報告している。柴田・安井(2006)も指摘しているように、粘着トラップは昆虫調査に有用であるが、希少な哺乳類が混獲される場合があることが明らかに

なったので、トラップの設置にあたっては目的としない動物に対して十分に配慮する必要がある。

謝 辞

仁尾かおり氏には未発表記録を私信として引用させていただくことをご承諾いただいた。記して深く感謝申し上げます。

引用文献

- 阿部 永・石井信夫・伊藤徹魯・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明. 2005. 日本の哺乳類 [改訂版]. 東海大学出版会, 東京, 206pp.
- 愛媛県貴重野生動植物検討委員会(編). 2003. 愛媛県レッドデータブック. 愛媛県県民環境部環境局自然保護課, 愛媛, 447pp.
- 香川県希少野生生物保護対策検討会(編). 2004. 香川県レッドデータブック. 香川県環境森林部環境・水政策課, 香川, 416pp.
- 環境省野生生物課(編). 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物(哺乳類).(財)自然環境研究センター, 東京, 177pp.
- 高知県レッドデータブック[動物編]編集委員会(編). 2002. 高知県レッドデータブック[動物編]. 高知県文化環境部環境保全課, 高知, 470pp.
- コウモリの会(編)2005. コウモリ識別ハンドブック. 文一総合出版, 東京, 68pp.
- 前田喜四雄. 1996. 日本産翼手目(コウモリ類)の分類レビューと解説. 哺乳類科学, 36: 1-23.
- 森井隆三. 1992. 四国に生息する翼手類の水平分布. 香川生物, 19: 21-36.
- Sato, S. and K. Maeto. 2006. Attraction of female Japanese horn-tail *Urocerus japonicus* (Hymenoptera: Siricidae) to α -pinene. Applied Entomology and Zoology, 41: 317-323.
- 柴田銃江・安井さち子. 2006. 茨城県北茨城市小川保護林におけるコテングコウモリの樹冠部での偶発的捕獲. 東洋蝙蝠研究所紀要, 5: 27-29.
- 谷地森秀二. 2007. 高知県のコウモリ目: かすみ網による分布調査(その2). 四国自然史料

いの町におけるテングコウモリ

学研究,(4):10-17.

Yoshiyuki, M. 1989. A Systematic Study of the Japanese Chiroptera. National Science Museum, Tokyo. 242pp.

(原稿受理 2007年3月31日)